

2020年度 事業報告書

委員会名	役職	担当
三役	専務理事	松坂 俊樹

基本方針	<p>大館青年会議所は62年の長き歴史に渡り、郷土を愛する青年たちが地域を想い、明るい豊かな社会の実現に向けて心を一にし、運動を展開してまいりました。近年、全国的に少子高齢化や人口減少が進行し我々の住み暮らす大館においても次の世代の組織運営を担う人財不足が懸念されます。郷土の未来に憂いをいだくことなく、責任世代である我々青年が、同じ志をもった仲間と共に自己を変革させるとともに、子どもたちが希望溢れるようまちに発展させ、新世代の礎となる組織運営を実践していく必要があります。</p> <p>まずは、我々郷土を愛する青年たちが心を一にして活動を行っていくために、会員主体の決起集会を開催し、2020年度の運動に邁進していく情熱を生み出します。そして、地域を牽引する若きリーダーとしての資質を磨くために、青年会議所を深く知る機会を提供し、自己を向上させる意欲を高めます。さらに、豊かな地域社会を残し愛する郷土を持続させるために、持続可能な開発目標の達成を目指した運動を展開し、自己の成長、地域の活性化を推進します。また、郷土の未来のために挑戦されてきた2020年度卒業生へ感謝を伝えるために、新たな門出を祝う卒業式を行い、煌々と輝く卒業生を送り出します。そして、長年に渡り友情を育み、密接な関係を築いてきた渋谷区委員会と意義ある交流をするために、渋谷区委員会と連携した事業を推進し、お互いの地域の活性化を促します。</p> <p>責任世代である我々青年が、郷土の明るい豊かな未来の実現に向けて、同じ志をもった多くの仲間たちと共に自己を成長させ、新世代の礎となる運動を展開し、希望溢れる大館を実現します。</p>
------	--

		1	2	3	4
事業区分		他	他	他	他
事業名		12月例会 2020年度決起集会！ 今こそ挑戦の時！！	地域応援事業 (消毒液寄贈事業)	4月例会 (WEB例会)	地域応援事業 (献血推進事業)
事業目的		【対外】 なし。 【対内】 なし。	【対外】 なし。 【対内】 なし。	【対外】 なし。 【対内】 なし。	【対外】 なし。 【対内】 なし。
実施日時		2019年12月18日(水) 18:30 ~ 21:00	2020年4月21日(火) 13:00 ~ 14:00	2020年4月23日(木) 19:00 ~ 20:00	2020年4月24日(金) 09:00 ~ 11:15 12:30 ~ 15:30
事業内容		2020年度最初の例会として、会員全員が理事長の方針を周知し、一丸となって運動を展開していくための決起集会を開催し、新年度を共に歩むことのできる団結力を生み出す例会を実施しました。	新型コロナウイルスの脅威が日本中を覆う中、我々の住む大館市においても、常にウイルスの恐怖と隣り合わせの状況にあります。その中で、地域に住む人々、特に社会的弱者へ不安を解消する支援策が求められています。消毒液として比較的入手が容易な電解次亜水が必要としている団体にお贈りすることを計画し、実施しました。	新型コロナウイルス流行の影響で、メンバーが集まることのできない現状の中で、青年会議所メンバーとしての意思統一、今後の方向性を再確認する機会を設けることが重要と考え、大館青年会議所としては初のオンラインによる例会を開催しました。	新型コロナウイルスが日本各地に不安の影を落とす中、医療の最前線に携わる人々への支援が必要とされています。特にイベント等自粛の影響で献血での血液が不足している状態が続いており、秋田県の医療の一助となるべく、推進を行うことが必要と判断し、献血推進事業として実施しました。
参加人数	計画	外部 なし。 内部 (一社)大館青年会議所 正会員 及び 仮会員・賛助 会員 21名	外部 なし。 内部 (一社)大館青年会議所 正会員 3名	外部 (公社)日本青年会議所 ロールモデル推進委員会 2名 (公社)日本青年会議所 東北地区 秋田ブロック協 議会 1名 内部 (一社)大館青年会議所 正会員 及び 仮会員・賛助 会員 24名	外部 献血参加者 目標 40名 内部 (一社)大館青年会議所 正会員 及び 仮会員・賛助 会員 24名
	結果	外部 なし。	外部 なし。	外部 (公社)日本青年会議所	外部 献血受付人数 71名 内採血者 58名

		内部 (一社)大館青年会議所 正会員及び 外部監事 10名	内部 (一社)大館青年会議所 正会員 3名	ロールモデル推進委員会 4名 (公社)日本青年会議所 東北地区 秋田ブロック協 議会 1名 内部 (一社)大館青年会議所 正会員 及び 仮会員・外部 監事 14名	内部 (一社)大館青年会議所 正会員 及び 仮会員 9名
目的達成の検証	達した点	【対外】 なし。 【対内】 なし。	【対外】 なし。 【対内】 なし。	【対外】 なし。 【対内】 なし。	【対外】 なし。 【対内】 なし。
	達しなかった点	【対外】 なし。 【対内】 なし。	【対外】 なし。 【対内】 なし。	【対外】 なし。 【対内】 なし。	【対外】 なし。 【対内】 なし。
次年度への 申し送り事項				・今後の課題として、オンラインの開催であるにも関わらず、出席者が少ない点が挙げられます。自宅にいながら参加できること、普段の例会よりも短時間での開催となること、拘束時間が短いことを利点に、開催日時を早めにメンバーに告知し、参加率向上を目指すことが重要と考えます。また、今回は国歌・JCソング斉唱ならびにクリード唱和はカットしましたが、厳粛な例会としての緊張感を維持する必要性からクリード唱和だけでも行うなど、セレモニーの在り方も見直すべきかと考えます。	

2020年度 事業報告書

委員会名	役職	担当
三役	専務理事	松坂 俊樹

基本方針	<p>大館青年会議所は62年の長き歴史に渡り、郷土を愛する青年たちが地域を想い、明るい豊かな社会の実現に向けて心をつにし、運動を展開してまいりました。近年、全国的に少子高齢化や人口減少が進行し我々の住み暮らす大館においても次の世代の組織運営を担う人財不足が懸念されます。郷土の未来に憂いをいただくことなく、責任世代である我々青年が、同じ志をもった仲間と共に自己を変革させるとともに、子どもたちが希望溢れるようまちに発展させ、新世代の礎となる組織運営を実践していく必要があります。</p> <p>まずは、我々郷土を愛する青年たちが心をつにして活動を行っていくために、会員主体の決起集会を開催し、2020年度の運動に邁進していく情熱を生み出します。そして、地域を牽引する若きリーダーとしての資質を磨くために、青年会議所を深く知る機会を提供し、自己を向上させる意欲を高めます。さらに、豊かな地域社会を愛する郷土を持続させるために、持続可能な開発目標の達成を目指した運動を展開し、自己の成長、地域の活性化を推進します。また、郷土の未来のために挑戦されてきた2020年度卒業生へ感謝を伝えるために、新たな門出を祝う卒業式を行い、煌々と輝く卒業生を送り出します。そして、長年に渡り友情を育み、密接な関係を築いてきた渋谷区委員会と意義ある交流をするために、渋谷区委員会と連携した事業を推進し、お互いの地域の活性化を促します。</p> <p>責任世代である我々青年が、郷土の明るい豊かな未来の実現に向けて、同じ志をもった多くの仲間たちと共に自己を成長させ、新世代の礎となる運動を展開し、希望溢れる大館を実現します。</p>
------	---

事業区分		他	他	他
事業名		5月例会『オンラインで考えよう！ 渋谷と大館の「次への挑戦」』	10月例会 『持続可能な大館の実現に向けて SDGsで豊かな未来を目指そう！』	11月例会 『2020年度 会員交流会』
事業目的		【対外】 例会の雰囲気共有することでお互いの距離感を縮め、協同の意欲を高めてもらうことを目的とします。 【対内】 青年会議所メンバーとしての意識を高め、かつ渋谷区委員会との相互交流への意識を高めてもらうことを目的とします。	【対外】 地域におけるSDGsの認知度を高め、市民の協働の元で地域の活力を伸ばす意欲を持ってもらうことを目的とします。 【対内】 SDGsを推進する青年団体として、率先して地域を先導する意欲を高めることを目的とします。	【対外】 なし。 【対内】 なし。
実施日時		2020年5月20日(水) 19:00～20:00	2020年度10月26日(月) 19:00～21:30	2020年11月24日(火) 19:00～21:00
事業内容		(公社)東京青年会議所渋谷区委員会との共催で例会を開催し、お互いのまちに今後必要な事業、交流のあり方について、グループディスカッションを交えながら話し合う例会を開催します。	大館市におけるSDGsの認知度向上を目指し、地元の将来を担う若手経営者および会社員を対象にSDGsを学び、得た知識を企業経営に生かすことで、持続可能な地域の意識を市民に浸透させる先導役とさせていただきます。	2020年度最後の例会として、今年一年間の挑戦の活動を振り返る場にするるとともに、2021年度は更に一丸となって運動を展開していくために、アットホームな忘年会を開催いたしました。
参加人数	計画	外部 (公社)東京青年会議所 渋谷区委員会 20名 内部 (一社)大館青年会議所正会員 及び 仮会員・賛助会員 20名	外部 大館市内の経営者または会社員 20名 <参加依頼団体> 大館商工会議所青年部・大館北秋 商工会青年部・大館市内NPO法人 内部 (一社)大館青年会議所 正会員 及び 仮会員 22名	外部 なし。 内部 (一社)大館青年会議所正会員 及び 仮会員・賛助会員 23名 外部監事 3名 事務局員 1名
	結果	外部 (公社)東京青年会議所 渋谷区委員会 18名 内部 (一社)大館青年会議所正会員 及び 仮会員・賛助会員 12名 外部監事 1名	外部 大館市内の経営者または会社員 10名 <内訳> 大館商工会議所青年部 8名 大館北秋商工会青年部 2名 内部 (一社)大館青年会議所 正会員 11名 外部監事 1名	外部 なし。 内部 (一社)大館青年会議所正会員 14名 外部監事 3名 事務局員 1名
目的達成の検証	達した点	【対外】 昨年とメンバーが大きく入れ替わり、ほとんどのメンバーが初めての顔合わせとなりましたが、グループワークでは積極的に両都市間でどのような事業を行うべきかを話し合う姿勢が見られ、お互いでの協同の意欲を高める目的は達成できたと考えます。	【対外】 事業開催にあたり、関係諸団体への呼びかけを早期から積極的に行ったことで、各団体から合計10名の出席をしてもらいました。 第1部の講演では外部の参加者には紙資料を配布し、内容をより分かりやすくするように心がけた結果、「SDGsの重要性を理解することができましたか」との設問に100%の「できた」との回答を得ることができました。また第2部のカードゲームでは、青年会議所メンバーと他団体をそれぞれ組み合わせチーム分けを行い、各テーブルで率先して意見を出し合う積極的な姿勢が各テーブルで見られました。事業を通じてSDGsの重要性を理解し、市民の間で	【対外】 なし。

		<p>【対内】 グループ分けをした4つのグループのうち、大館メンバーが3つのリーダーとして発言するなど積極的な姿勢が見られました。またアンケートでも共同事業を行うこと、意識を共有することなど、交流の意識が高まる効果が得られました。</p>	<p>の協働の意欲をもって地域の活力を高める効果を持ってもらうことができたと考えます。</p> <p>【対内】 アンケートの結果、「他団体と積極的に交流を深めることができましたか」の設問では100%のメンバーに「できた」と回答して頂きました。また第2部では参加団体と積極的に意見を交わし合うメンバーの姿が多くみられ、SDGsを推進する団体として、より地域の先導役となる意欲を高めることができたものと考えます。</p>	<p>【対内】 なし。</p>
	<p>達しなかった点</p>	<p>【対外】 例会終了時にアンケートの配布ができなかったため、事後に記入してもらうかたちとなりましたが、参加してもらったほとんどのメンバーからアンケートを回収することができず、協働の意識がどこまで高まったかを知ることができませんでした。また例会後の懇親会も半数のメンバーが出席せず、限定的な効果しか上げることができなかった点が挙げられます。</p> <p>【対内】 渋谷と同じく事後にアンケートを取る形式にしましたが、設問1の「交流が深まったか」について、「深まった」と「深まらなかった」が半数ずつになるなど、オンラインでの効果が限定的であったことがうかがえました。またオンライン上のつながりを今後の交流につなげていく点に関しては「何をしたいかわからない」等の意見があり、実際に会って話をする場合と比べ、オンライン上の交流ではお互いの意欲が高まらないのではないかといった疑念が一部見られました。</p>	<p>【対外】 参加者が目標の半数程度の参加にとどまってしまいました。事業1週間前から大館市に隣接する弘前市で新型コロナウイルスの感染クラスターが発生し、事業規模の縮小という判断となりました。そのため招待団体への追加募集を避け、密集を防ぐ方針としたため、より多くの参加者に事業の効果を広げることができませんでした。アンケートで協働の意識が高まらなかったと答えた人が1名おりました。</p> <p>【対内】 全メンバーの参加がかなわなかった点が挙げられます。参加したメンバー全員からアンケートを回収することができませんでした。</p>	<p>【対外】 なし。</p> <p>【対内】 なし。</p>
<p>次年度への 申し送り事項</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・途中の入退場で進行が妨げられることを想定して、進行役とZOOMのホストは別々の人が担当してください。 ・事前にグループのメンバーを決めるなど、スムーズな進行を心がけてください。特に渋谷の参加者は担当と密にやり取りをして人数を確定させてください。 ・音量チェック、録画・録音の準備など事前準備を渋谷と合同でしっかり行ってください。 ・「メンバー間に温度差が感じられる」という意見がありましたので、グループ分けについては渋谷と協議の上、選定してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講師との打ち合わせは主に ZOOMにて行いましたが、ZOOM ではカードゲームのやり方が少しわかりづらいところがあります。実際に講師とお会いしカードゲームの手順について細かな打ち合わせを行ってください。 ・新型コロナウイルスの感染拡大によっては、当事業はオンライン上で行うことも検討する必要があります。対面上での例会ができなくなった場合の代替案としてオンライン上でカードゲームができるかどうかを講師と打ち合わせしてください。 ・アンケートの回収については、司会者から告知する、紙資料を用意するなど全員回収できるように設定してください。 ・講師の用意する資料は配布可能かどうかを事前に確認してください。 ・他団体との交流事業については青年会議所主催の事業であることを 	

	<p>印象づけるため、予備の講師にメンバーをつけるなどの工夫を考慮してください。</p> <p>・SDGs関連の事業をするにあたって、秋田県北NPO支援センターに協力を依頼したところ、非常に興味を持ってもらいました。今回は人数制限の関係上、やむなく参加を見送っていただきましたが、今後同様の事業をするにあたって、参加募集にかなり有効であると考えます。人員募集の際は協力を依頼してみてください。</p>	
--	--	--

<p>総括</p>	<p>本年度の三役は土館理事長が掲げる『跳戦』のスローガンのもと、5つの事業を計画いたしました。本年度最初の事業となる12月例会「2020年度決起集会！今こそ跳戦の時！」では、理事長方針を全会員に周知するとともに、一年間一丸となって運動を展開し、新年度を共に歩むことのできる団結力を生み出す機会になりました。しかしながら、12月に発生した新型コロナウイルス感染症の影響により、活動が大幅に制限され、当初計画していた事業の中止または事業内容の変更をしなければいけない事態となったことは残念であります。そのような状況の中でも、少しでも地域に貢献できることは何かと考え、地域応援事業として地域の福祉施設への消毒液寄付や献血推進事業を多くの皆様のご協力を得て開催することが出来たことは嬉しい限りであります。また、本年度新たにZOOMを活用したWEB理事会やWEB例会に取り組めたことは、三密の回避や移動時間の負担軽減となり、この手法は今後も様々な場面で有効活用できるのではないかと考えます。</p> <p>本年度は実施可能な事業を行なってまいりましたが、準備期間や会員の皆様へのご案内期間が短くなってしまうなど、少なからず混乱を招いてしまったことと存じます。しかしそのような状況の中においても、会員の皆様には様々な場面で多くのご協力をいただき感謝申し上げます。一年間誠にありがとうございました。</p>
-----------	---